

戦国時代の要害・鉢形城！

●皆さんが驚いた「鉢形城」へ！
 今宵は、12日の「浦高百年の森と鉢形城の旅」に参加して下さった皆様にお礼状を認めました。

* *

先日の「浦高百年の森と鉢形城の旅」では、大変お世話になりました。

今回の旅では、

1. 多くの皆様に喜んでご参加いただけたこと
2. お天気に恵まれて、午前と午後の散策を愉しんでいただけたこと
3. 石田様や奥貫様、鉢形城歴史館の石塚館長さんのご案内で、さまざまなことを知ることができたこと
4. そして、お酒を交えて親睦の輪が広がったことと4つの点で小旅行が大成功できましたことを心から御礼申し上げます。…(後略)。

* *

他の地域同窓会の皆様から春日部地区は活発に活動しているという評価をいただいているのは、毎回多くの皆様に参加して下さるからです。企画が良かったと言われるのも、さまざまな場面でご案内いただいた方々の知識が豊富であるとともに話術が優れていたからです。そういう意味で、今回もマイクロバス定員ぴったりの21名の皆様には感謝です。

そして、締めくくりにご案内いただいた「**鉢形城歴史館**」の石塚三夫館長さんには丁寧な説明と上手な時間配分に感謝をしつつ、鉢形城の歴史などを綴りたいと思います。実は、石塚館長さんには5年前の4月にも“グループ92”(星野和央会長)の旅でも寄居町をご案内いただいていた。失念してて申し訳ございませんでした。 * *

◆**鉢形城の歴史**

鉢形城跡は、戦国時代の代表的な城郭跡として、昭和7年に国指定史跡となりました。城の中心部は、荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上に築かれていて、天然の要害をなしています。この地は、交通の要衝に当たり、上州や信州方面を望む重要な地点でした。鉢形城は、文明8年(1476)関東管領であった山内上杉氏の家臣・長尾景春(ながおかげはる)が築城したと伝えられています。後に、この地域の豪族・藤田康邦に入婿した、小田原の北条氏康の四男氏邦が整備拡充し、現在の大きさとなりました。関東地方において有数の規模を誇る鉢形城は、北関東支配の拠点として、さらに甲斐・信濃からの侵攻の備えとして重要な役割を担いました。

天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めの際には、後北条氏の重要な支城として、前田利家・上杉景勝等の北国軍に包囲され、攻防戦が展開されました。1ヶ月余りにおよぶ籠城の後、北条氏邦は、6月14日に至り、城兵の助命を条件に開城しました。開城後は、徳川氏の関東入国に伴い、家康配下の成瀬正一・日下部定好が代官となり、この地を統治しました。

* *

鉢形城公園フィールドマップにあるように壮大な面積の城郭跡です。半日ゆっくりとボランティアガイドさんの説明を聞きながら歩くのがお奨めです。



連休を挟んで4月29日には「金尾山つつじまつり」、5月10日には「北条まつり」があるようです。もちろんメインは風布の「浦高百年の森」の新緑です。 (o)v